

かばさきでら
栃木・樺崎寺跡

- 1 所在地 栃木県足利市樺崎町
- 2 調査期間 二〇〇七年(平19)七月～十二月
- 3 発掘機関 足利市教育委員会文化課
- 4 調査担当者 足立佳代・板橋 稔
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(桐生及び足利・栃木)

樺崎寺跡は足利市街地の北東約四・五kmに位置する。樺崎川により形成された小支谷に八幡山を背に東面する堂宇が展開する、足利氏の氏寺跡・廟所跡である。源姓足利氏二代目の足利義兼が文治五年(一一八九)の奥州合戦の戦勝祈願のために創建したとされ、このころに最初の堂舎が建立されたと推定される。樺崎八幡宮本殿の南東前面には、中島と立石景石をもつ浄土

式庭園が営まれた。発掘調査は一九八四年度より継続して実施され、八幡山山麓の堂塔跡や浄土式庭園跡、僧坊跡などが確認された。二〇〇一年一月には国の史跡に指定されている。今回の発掘調査では、園池北東部の導水口、園池東岸、園池南西部の排水口の確認を行った。木簡は、園池北東部導水口付近の中世末頃と思われる堆積層中から一点出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「坂東三十三所順礼聖同道九人」

180×30×4.5 061

上端は山形、下端は平坦に削る。下部に釘痕と思われる孔がある。下部左端にも墨痕が見られるが判読不能。巡礼札である。樺崎寺は戦国期以降次第に衰退したとされるが、本木簡から中世末にも巡礼に訪れる人がいたことがわかる。なお、本市の史跡足利氏宅跡(鏝阿寺)には室町時代の巡礼札が残されている。同寺は一六番札所の水澤寺から一七番札所の満願寺へのルート上に位置し、札所以外でも当時有名な霊場には巡礼者が訪れていたことが窺える。

(板橋 稔)

